

プレスリリース

2015年1月5日

Lineage of Elegance: Tawaraya Sōtatsu

(「俵屋宗達と雅の系譜」; 仮称)

「松島図屏風」を含め世界中から約70点

2015年10月24日～2016年1月31日開催、フリーア美術館(米国ワシントンDC)で開催

フリーア美術館(米国ワシントンDC)

門外不出の日本美術の宝庫、日本での広報活動を開始



「松島図屏風」細部 俵屋宗達
江戸時代 17世紀 六曲一双 紙本着色
F1906.231-232 Freer Gallery of Art, Smithsonian

フリーア美術館は、シカゴの鉄道王チャールズ・ラング・フリーア(1854-1919)が、蒐集した美術品をアメリカ連邦政府に寄贈したコレクションを基にして、1923年に開館したスミソニアン博物館群のひとつです。国宝級の日本美術を含む豊富なアジア美術を中心に、19世紀・20世紀初頭のアメリカ美術までの幅広い作品を所蔵しています。フリーアの遺言により、すべての所蔵品は館外への持ち出しができないため、日本美術コレクションが充実していることは、日本ではあまり知られていません。

当館にて、2015年10月から“Lineage of Elegance: Tawaraya Sōtatsu”(「俵屋宗達と雅の系譜」; 仮称)を開催します。所蔵する俵屋宗達の傑作「松島図屏風」、「雲竜図屏風」等をはじめ、さらに世界中から計約70点の作品を展示、ここでしか開催することができない奇跡の展覧会となります。

当展の開催を機に、日本での認知度の向上を目指して、広報活動を開始いたします。

まもなく日本語のWEBサイトを公開、順次充実させていく予定です。

フリーア美術館広報東京事務局 富樫、大原

TEL 03-5689-0449 E-mail freer@prinfo.co.jp Mobile 080-5443-1112 〒113-0033 東京都文京区本郷4-24-8-11F

Lineage of Elegance: Tawaraya Sōtatsu

(「俵屋宗達と雅の系譜」; 仮称)

フリーア美術館(米国ワシントン DC)では“Lineage of Elegance: Tawaraya Sōtatsu”(「俵屋宗達と雅の系譜」; 仮称)を、2015年10月24日から2016年1月31日まで開催いたします。俵屋宗達は、琳派の祖と言われており、日本美術の歴史に重要な足跡を残しています。当展は、日本以外で開催されるはじめての大規模な展覧会で、約70点の作品を日本、ヨーロッパ、アメリカから集めて展示します。

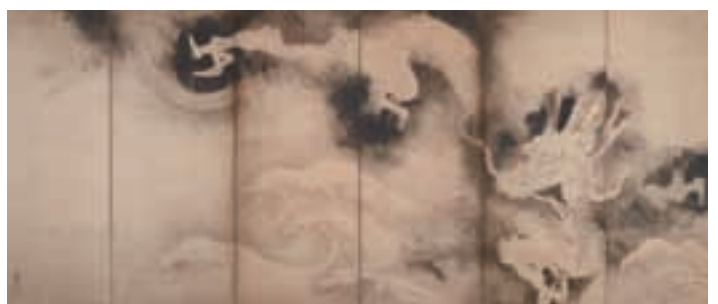
フリーア美術館は、俵屋宗達の傑作「松島図屏風」「雲竜図屏風」などを所蔵しています。しかし、チャールズ・ラング・フリーア(1856~1919)の遺言により、その作品は美術館以外では展示せず門外不出になっています。これらの作品を含めた、俵屋宗達の作品が一堂に会する、フリーア美術館でのみ開催することができる展覧会です。

俵屋宗達は、17世紀のはじめの京都で活躍しました。町衆の生まれで、屏風、扇、掛軸など絵に関わり商売をする「絵屋」を営んでおり、その屋号は「俵屋」でした。公家、文化人たちと盛んに交流、本阿弥光悦(1558-1637)との共同作品などがあります。宗達は、墨や絵具が乾ききる前に濃度の違う墨や絵具を垂らすことで滲みを生み出す“たらし込み”と言われる技法や、線を描かない彫塗などで輪郭線を柔らかくする絵画手法を用いています。また、金銀泥を用いた華やかさや、斬新な構図などでドラマチックな絵画空間を表現しています。

宗達の絵画は、その後の日本の画家たちに影響を与え、継承されています。17世紀に誕生したこの流れは、その後、「琳派」という言葉で呼ばれるようになりました。尾形光琳(1658-1716)の「琳」という字に由来していますが、俵屋宗達と尾形光琳は、琳派の創始者と言われ、その影響力は、西洋の画家クリムト、マチス、またアールデコ様式などにまで及んでいます。生没年などの記録がなく、落款や印章がない作品や俵屋工房の「伊印」がある作品など、未だに分かっていない部分も多い謎のアーティストであることも、宗達の興味深いところです。



「松島図屏風」 俵屋宗達
江戸時代 17世紀 六曲一双 紙本着色
F1906.231-232 Freer Gallery of Art, Smithsonian



「雲竜図屏風」 俵屋宗達
江戸時代 1590-1640 六曲一双 紙本墨画淡彩
F1905.229-230 Freer Gallery of Art, Smithsonian

開催概要

展覧会名	“Lineage of Elegance: Tawaraya Sōtatsu” (「俵屋宗達と雅の系譜」；仮称)	
主催	スミソニアン研究機構 フリーア／サックラー美術館 独立行政法人国際交流基金	
会期	2015年10月24日(土)～2016年1月31日(火)	
会場	フリーア／サックラー美術館	<p>※2015年秋には、下記の方々を執筆者として、当展覧会の図録を発行します。</p> <p>仲町 啓子(実践女子大学)、奥平 俊六(大阪大学)、古田 亮(東京藝術大学)、野口 剛(根津美術館)、太田 彩(宮内庁三の丸尚蔵館)、ユキオ・リピット(ハーヴァード大学)、ジェームス・ユーラック(フリーア美術館)</p> <p>※当展について、2015年2月に記者発表会を予定しております。</p> <p>※広報用画像については、広報東京事務局までお問い合わせください。</p>
開館時間	10:00～17:30(入館は17:00まで)	
休館日	12月25日	
入場料	無料	
ホームページ	http://www.asia.si.edu/	
読者からの問い合わせ先	01+(202) 633-1000	

出品作品／フリーア美術館所蔵



「誰が袖図」
江戸時代 18世紀 六曲一双 紙本着色
F1907.126-127 Freer Gallery of Art, Smithsonian



「雑木林図屏風」 伊年印
江戸時代 17世紀中期 六曲一双 紙本着色
F1962.30-31 Freer Gallery of Art, Smithsonian



「夏秋草花図屏風」 伊年印
江戸時代 17世紀 六曲一隻 紙本金地着色
F1896.82 Freer Gallery of Art, Smithsonian



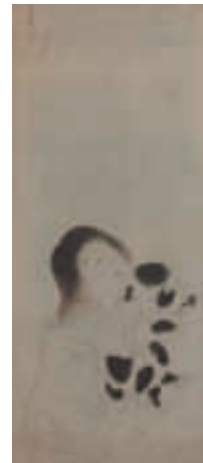
「合欵木夏草花図屏風」 伊年印
江戸時代 1630-1670 四曲一隻 紙本着色
F1902.92 Freer Gallery of Art, Smithsonian



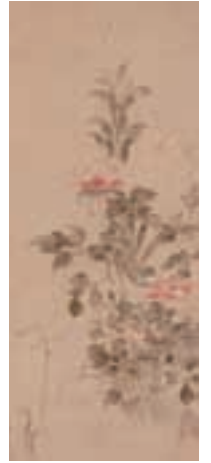
「鶏頭に玉蜀黍朝顔図」
江戸時代 17世紀 二曲一隻 紙本着色
F1901.99 Freer Gallery of Art, Smithsonian



「鶏頭に玉蜀黍朝顔図」
江戸時代 1568-1615 二曲一隻 紙本着色
F1903.142 Freer Gallery of Art, Smithsonian



「童子仔犬図」 俵屋宗達
江戸時代 ca.1600-1630 紙本墨画淡彩
F1902.37 Freer Gallery of Art, Smithsonian



「芍薬百合図」 伊年印
江戸時代 1568-1615 紙本着色
F1898.56 Freer Gallery of Art, Smithsonian



「扇面散屏風」 太藤印
江戸時代 17世紀初頭 六曲一隻 紙本着色
F1900.24 Freer Gallery of Art, Smithsonian



「古今集和歌卷」 本阿弥光悦筆 俵屋宗達下絵
江戸時代 17世紀初頭 紙本金銀泥木版・墨書
F1903.309 Freer Gallery of Art, Smithsonian



「葛の細道扇面流図屏風」 俵屋宗達
江戸時代 1590-1640 六曲一双 紙本着色
F1902.102-103 Freer Gallery of Art, Smithsonian



「新古今集和歌紙貼付屏風」 本阿弥光悦書
江戸時代 ca.1624-1637 六曲一双 紙本着色
F1902.195-196 Freer Gallery of Art, Smithsonian



フリーア美術館 (米国ワシントンDC)

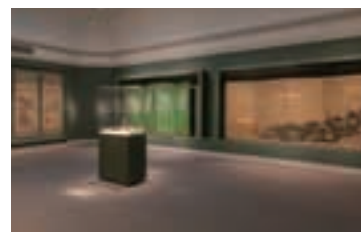
門外不出の日本美術の宝庫



[1] フリーア美術館概要

フリーア美術館 基本情報

所在地	所在地 米国ワシントン DC Independence Ave at 12th St SW, Washington, DC 20560		
美術館面積	展示室面積 16,834㎡		
開館時間	10:00~17:30		
休館日	12月25日		
入館料	無料		
付帯施設	東アジア絵画保存スタジオ、技術研究所、アジア美術調査図書館		
アクセス	スミソニアン駅下車 徒歩1分		
ホームページ	http://asia.si.edu/		
スタッフ	館長	ジュリアン・レイビー博士 Julian Raby, PhD	
	日本美術主任キュレーター	ジェームス T. ユーラック博士 James T. Ulak, PhD	
	日本美術キュレーター	アン・ヨネムラ Ann Yonemura	
	日本陶磁器キュレーター	ルイーズ・コート Louise Cort	
所蔵品数	25,864点 (2013年現在)		
	アジア美術	約22,000点	日本の陶磁器 約2,885点
	日本美術	約12,228点	など
来場者数	395,896人 (2013年)		



■ 実業家フリーアのコレクションからなる美術館

フリーア美術館は、アメリカ・ワシントン DCにある世界最大の博物館群として知られるスミソニアン博物館群のなかで最初に開設されたファイン・アートの美術館です。

たき上げの実業家であり、独学の目利きであったチャールズ・ラング・フリーア(1854-1919)が、1880年代から1919年の死去までに蒐集した7,500点もの美術品(うち、日本美術は約2,000点)を、スミソニアン協会に寄贈し、1923年に設立されました。フリーアの遺産は、フリーア美術館の所蔵品として引き継がれ、現在、アメリカ国内で最も大きなプライベートコレクションとなっています。フリーアの遺言により、当館の所蔵品はすべて門外不出となっており、フリーア美術館でしか観ることができません。

当館では、フリーアの意味を尊重し、作品を大切に保管するとともに、コレクションの充実と研究・教育普及活動を通じて文化の交流に努めています。フリーア美術館は、現在、サックラー美術館と同じ建物の中にあり、それぞれの特徴を活かした展示、調査、教育活動、保存活動を行っています。



■ 独自の審美眼で蒐集されたアジア美術の宝庫

フリーアは、ジャポニズムに強く影響を受けたジェームズ・マクニール・ホイッスラー(1834-1903)との交友を通じて、アジア美術に深い関心を抱くようになり、多くの国を旅する中で、中世の日本と19世紀アメリカのような、異なった文化間の美的な関係や類似点を発見することに喜びを感じていました。

コレクションは、フリーアの審美眼に基づいた、絵画をはじめ、陶磁器、ブロンズ、彫刻、テキスタイルといった膨大なもので、日本、韓国、中国、インド、パキスタン、トルコ、イラン、イラク、シリア、中央アジアの美術、また、点数は少ないながらも非常に重要な初期キリスト教美術とエジプト美術など、幅広い地域・時代に及んでいます。

寄贈にあたり、フリーアが指示した指針に基づき、当館ではコレクションの充実を図っており、現在の所蔵品数は総数約25,000点に及んでいます。フリーアの独特の視点による所蔵品は、今なおフリーア美術館の根幹を形成しています。



■ 研究・調査活動

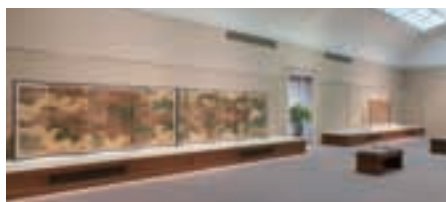
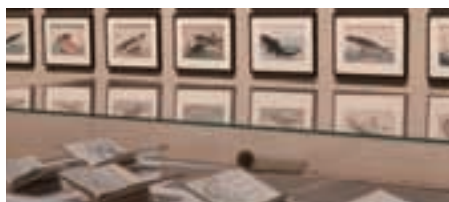
フリーア美術館は研究・調査施設として「東アジア絵画保存スタジオ (EAPCS:the East Asian Painting Conservation Studio)」(1932設立)、「技術研究所」(1951設立)を設けています。

「東アジア絵画保存スタジオ」は、アジア絵画の保存に特化したアメリカ国内では非常に数少ない機関のひとつとして活動しています。技術研究所は、美術研究に対する科学的な手法に取り組む施設としてはスミソニアン博物館で初めて設立されたものです。1960年からEAPCSは3名の日本人スタッフを有し、伝統的な日本美術の素材や制作の技法に即したプロジェクトへの支援を行っています。

また、アメリカにおけるアジア美術の資料庫として最も大規模な図書館を併設しており、2,000点近い稀少本を含め80,000点もの資料を所蔵しています。

■ 近年の日本美術展

当館では、日本美術の企画展を定期的に開催しています。近年開催したものとして、「小林 清親」展(2014)、「千種と茶の湯」展(2014)、「ブルヴェラー・コレクション」展(2013)、「狩野 一信」展(2012)、「日本のメゾチント」展(2012)、「北斎」展(2012)、「ドワイト・トライオンと杉本博司」展(2009)、「ブライス・コレクション」展(2009)などがあります。



[2] チャールズ・ラング・フリーアの生涯

■ 後半生を美術蒐集に捧げた鉄道王

チャールズ・ラング・フリーアは、1854年、ニューヨーク州の裕福でない家庭に生まれました。母親の死により、14歳で学校を辞め、家計を助けるためにセメント工場で働きはじめます。1880年には、デトロイトに移り住み、貨物列車の車両を作る会社を設立、1899年、自社と他の13の車両メーカーとを合併して巨大な鉄道車両会社を作り上げ、鉄道王として成功を収めました。1990年には事業の第一線から退き、美術蒐集の研究と充実に専念するようになりました。



■ ホイッスラー、そしてアジア美術との出会い

1882年、デトロイトでの一人暮らしの部屋を飾るために購入したホイッスラーのエッチングが、フリーアが初めて購入した美術品でした。当時のほとんどのアメリカ人と同様、ヨーロッパとアメリカの画家の作品の蒐集から始めたフリーアは、特にホイッスラーの作品に強い感動を受けました。1904年に購入してアメリカに移設した「青と金色のハーモニー：ピーコック・ルーム」は、質の高い彼のホイッスラーのコレクションの中で最も良く知られているものです。

個人的にもホイッスラーと交友を深めるようになったフリーアは、ホイッスラーのアジア美術への深い関心を共有するようになります。

■ 日本訪問、日本での交友

アジアへの目を開かされたフリーアは、1894年から1911年にかけて、日本を5回訪問、特に興味を持ったのは絵画、陶磁器、茶道具だったといます。1887年に初めて購入したアジア美術は、絵が描かれた日本の扇でした。

日本滞在中は、実業家であり茶人でもあった原三溪(1868～1939)や当時日本に招聘されていたアーネスト・フェノロサ(1853～1908)などと交流を重ねる中で、日本と日本美術への関心を深めていきます。

東洋と西洋の関係に着目した新しい世界観によって、フリーアは個性的で、風変わりさえも言える視点から美術品を買い求めました。生涯において蒐集した日本美術は絵画、屏風、陶磁器など、約2,000点に上ります。



■ 遺産をスミソニアン博物館に寄贈

フリーアはヨーロッパ、西アジア、エジプト、インド、そして東南アジアにも旅し、研究し、研究者に会い、美術品を購入しました。

1904年に、フリーアはスミソニアン博物館にコレクションの寄贈を申し出ましたが、当初スミソニアン博物館は、科学的な博物館群に美術品を受け入れることを迷っていました。しかし、当時のセオドア・ルーズベルト大統領が関心を示したことにより、1906年に申し出は受諾され、フリーアは9,470点の寄贈と美術館建設の資金を寄付しました。フリーアは、建築する美術館についても明確なイメージを持っており、美術館はその意向を反映したのですが、1923年の開館を待たず1919年に亡くなりました。

[3] コレクション概要

■ 「青と金色のハーモニー：ピーコックルーム」

ジェームズ・マクニール・ホイッスラーが、1876年から1877年にかけてロンドンで手掛けた豪華絢爛なインテリアで、当館唯一の常設展示です。

マントル上の「バラ色と銀色：陶器の国の姫君」と、陶器が飾られた壁面、そして鮮やかな色が、印象的な世界観を作り出しています。ホイッスラーがイギリスで購入して、アメリカに移築しました。アメリカとアジアの美術と美的な関係に対するフリーアの信念が読み取れる、当館を象徴する展示です。



■ 屏風

15世紀から19世紀にまたがる幅広い分野の屏風を所蔵しています。フリーアは、当時日本でまだそれほど注目されていなかった琳派とよばれる作品を、早くから蒐集しました。日本にあれば国宝であろうと言われる、俵屋宗達の「松島図屏風」をはじめ、非常に優れた作品のコレクションです。門外不出の当館の屏風のうち、松島図屏風、雲竜図屏風、群鶴図屏風は、特定非営利法人京都文化会館とキャノンが共同で行っている「綴プロジェクト」により、高精細複製品が制作され、それぞれ祥雲寺(大阪府堺市)、東京藝術大学美術館、東京都美術館に寄贈されました。



「群鶴図屏風」 尾形光琳 17世紀後期 - 18世紀初頭



「四季花鳥図: 春と夏」 雪舟 15世紀後期 - 17世紀初頭



「浜飛雁図屏風」 円山応挙 18世紀

■ 絵画

平安・鎌倉時代から明治時代までの幅広い時代の作品を所蔵しています。

特に肉筆浮世絵は、フリーアが1897年に英一蝶の肉筆画を購入したことから始まり、海外の美術館では十指に入る規模のコレクションとなっています。

喜多川歌麿の雪月花3部作のうちの最後の1点「深川の雪」が、近年日本で発見され大きな話題になりましたが、当館では「品川の月」を所蔵しています。また葛飾北斎の作品が大変充実しています。



「品川の月」 喜多川歌麿 18世紀後期-19世紀初頭



「蝶とひなげし」 鈴木其一
17世紀初頭 - 中期



「双鶴図」 伊藤若冲 1775-1790



「富士と笛吹童子」 葛飾北斎 1839



「地藏菩薩絵巻」 13世紀

■ 陶磁器

フリーアが、初めてアジア美術に出会った当初から、特に関心を持ったもののひとつが日本の茶道具でした。日本訪問の際の、原三溪などとの交流を通じて習得した茶人趣味の影響も受けながら、瀬戸、唐津、京焼、薩摩、美濃、そして乾山や仁清などのすぐれた作品など約300点を蒐集しました。

2013年に、フリーア美術館が購入した由緒ある茶壺「千種」は、大きな話題となり、2014年2月に開催された「千種と茶の湯」展では、16世紀における日本の「茶の湯」が再現されました。



「黒楽茶碗 銘 蓑亀」 本阿弥光悦
17世紀初頭



「香合」 尾形乾山
18世紀初頭



茶壺 銘「千種」
13世紀中旬 - 14世紀中旬

■ 仏画・仏像

7世紀から17世紀にまたがる貴重な仏画・仏像のコレクションを有しています。フリーア美術館の入り口の回廊には、大阪堺市の茨寺に設置されていた、2メートル以上もの大きな2対の金剛力士像が、当館の美術品を守り続けてくれています。



「普賢菩薩像」 12世紀



「菩薩像」 快慶 13世紀



「金剛力士像」 13世紀



「四天王像」 1185-1333